

墨田区におけるアクセシビリティ向上を目指した、 障がいのある子どもたちと興行施設事業者のための実地調査・研修会

特定非営利活動法人 AYA

〒231-0012 神奈川県横浜市中区相生町 3 丁目 61 番地泰生ビル 2F

助成事業の概要

本事業は、映画館や水族館、プラネタリウムなどの興行施設の利用にハードルを感じている障がいのある子どもや医療的ケア児とその家族が、安心して利用できる環境を提供することを目的に実施。加えて、興行施設における実地調査と、その結果を振り返る研修会（振り返り対話会）を行うことで、事業者が「合理的配慮の提供」にどう対応すればよいのか考える場を設定した。

【実施内容】

1. 実地調査（年間 4 回）

- 2025 年 6 月：映画館（TOHO シネマズ錦糸町）で貸切上映
- 2025 年 12 月：水族館（すみだ水族館）で貸切＋自由鑑賞
- 2026 年 1 月：映画館（TOHO シネマズ錦糸町）で改善後の上映
- 2026 年 2 月：プラネタリウム（コニカミノルタプラネタリウム天空）で貸切上映

2. 研修会（年間 2 回）

実地調査・参加者アンケートの結果を踏まえ、事業者と研修会を実施。合理的配慮の具体策について議論し、事業者の対応力向上を目指した。

- 2025 年 9 月：映画館の課題と対策
- 2026 年 3 月：プラネタリウムの課題と対策

事業の成果

本事業では、昨年度に引き続き障がいのある子ども

もや医療的ケアが必要な子どもとその家族を対象に、映画館、プラネタリウム、水族館といった興行施設での「インクルーシブな場づくり」の実現を継続しました。以下の計 4 回のイベントを開催し、合計 310 組 935 名（昨年度 144 組 471 名の約 2 倍）の参加がありました。

1. 2025 年 6 月 15 日：AYA インクルーシブ映画上映会 in 錦糸町（TOHO シネマズ錦糸町）

参加者：119 組 325 名、上映作品：『映画ドラえもん のび太の絵世界物語』

2. 2025 年 12 月 6 日：AYA すみだ水族館へ行こう！（すみだ水族館）

参加者：18 組 61 名、開館前 30 分の貸切イベント

3. 2026 年 1 月 25 日：AYA インクルーシブ映画上映会 in 錦糸町（TOHO シネマズ錦糸町）

参加者：118 組 364 名、上映作品：『ズートピア 2』

4. 2026 年 2 月 28 日：AYA インクルーシブプラネタリウム作品上映会（コニカミノルタプラネタリウム天空）

参加者：55 組 185 名、上映作品：「ドラえもん 宇宙の模型」

今年度も通常では利用が難しい興行施設、特に暗い空間で静かに過ごすことが求められる空間において、声を発しても医療機器の音がしても皆が「お互い様」の気持ちで安心して楽しめる環境を提供することで、参加者からは「歩き回っていつも見れなかった映画を今回は気兼ねなく見せてあげることができた」「プラネタリウムなんて行くこ

と考えたこともなかったもので、行く機会をもらえてとてもよかった」「水族館等ハードルが高く行けなかった場所でも周りの目を気にせずゆっくり見ることができた」といった声など家族揃って普段諦めていた経験をするのを喜ぶ声が多数寄せられました。

施設側からも「継続的な機会提供と改善を通じてスタッフ自身が学びを得る場となっている」「今後も是非続けていきたい」との評価をいただいております、持続的に活動を展開する意義が確認されました。

成果の広報、公表

- 当 NPO 法人のホームページにて写真や参加者の感想含めて各イベントの内容を掲載。合わせて SNS（Facebook、Instagram、X）でも展開した。
- AYA インクルーシブ映画上映会 in 錦糸町（2026 年 1 月 25 日）のイベントは、すみだ経済新聞、東都よみうり新聞の取材を受け、それぞれ 2026 年 1 月 25 日、2026 年 2 月 6 日号にて掲載された
- 株式会社東京楽天地様の社報にて、サステナビリティへの取組みの一つとして AYA インクルーシブ映画上映会が掲載された

今後の展開

本事業を通じて、昨年度から継続的に取り組んできたインクルーシブな場づくりは、参加者数が約 2 倍に拡大するなど、着実にその輪が広がっています。映画館・水族館・プラネタリウムという異なる業種の興行施設との協働を重ねる中で、各施設のスタッフが合理的配慮への理解を深め、「共に学ぶ」関係性が育まれてきたことは、本事業の

大きな成果の一つです。

今後は、これまで築いてきた施設との信頼関係をさらに深め、貸切イベントにとどまらず、通常営業時においても障がいのある子どもや医療的ケア児が安心して利用できる環境整備へと発展させることを目指します。

「特別な機会」から「当たり前の日常」へ。障がいのある子どもたちとその家族が、社会のあらゆる場面で気兼ねなく文化体験を楽しめる社会の実現に向け、引き続き事業者・行政・地域と連携しながら、インクルーシブな環境整備の取り組みを着実に前進させてまいります。